

東京國際飛行場に就て

逓信省嘱託技師 原 田 碧

Air Port の建設が土木技師技術家の施工になつて以來、外國の工事雜誌にも其記事が見え出した。我國では昨年シビル誌上に内務省の鈴木博士が其研究意見を發せられた。尖端的な作用を有する工事だけに今度の羽田の國際飛行場なども各方面から注意されてゐるが、此の設計施工の主任者は港灣技術家として持有の技能を知られてゐる原田碧氏である。原田氏は目下逓信省經理局營繕課の一部で Air Port の設計を進めつゝある。(編輯者)

海上を走る船舶の根據として Harbourがあるやうに、空中を飛翔する航空機の休憩所としても Port の設備が必要となつてゐる。此の Port を稱して飛行場又は航空場とも云つてゐるが、海港に一般商船港灣と軍港灣との別ある如く、飛行場にも亦陸海軍用航空場と商事用とも云ふべき所謂國際飛行場の別があり、その何れもが又陸上飛行場と水上飛行場の二つに分れてゐる。

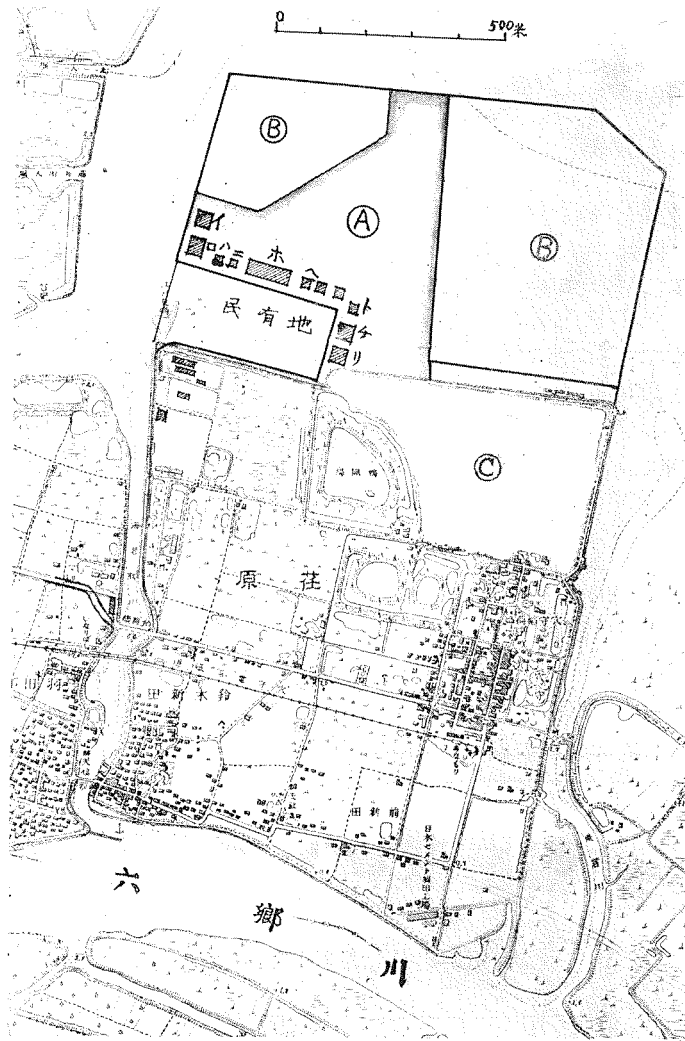
然らば此二つの種別即ち軍用と商事用飛行場の差別乃至特有性は何であらうか、軍用は主として敵の襲來防禦に備ふる位置に設定せらるゝので、都市の交通を考へず概ね軍港附近とか要塞地近傍とか又は軍事上重要な守護物の附近に撰定されるのが普通である。之に反して國際飛行場は第一都會の交通に便利な條件を具備してゐなければならない何故なら飛行の目的が、専ら旅客、貨物の運輸と通信等にあるからである。又飛行場の構造に就ても軍用は同時刻に飛行機の編隊飛揚の必要があるので、場域は相當廣きを要し、格納庫や其他とも敵の襲撃に備ふるとか或は場の中央に司令塔を設けるとか種々の設備を必要とするが、國際飛行場に在つては場内の廣さは割合に廣きを要せず最小八九萬坪にて足り、其設備の如きも専ら明るく開放時に爲されるもので、假令は夜間其位置を示す爲に恰も航路標識の如き默燈装置とか一般旅客の送迎場とかそれぞれ前者に異なる設備を爲すものである。

我國に於ける現在の國際飛行場としては、逓信省所管に屬するものに、立川、大阪、福岡、蔚山、京城、平穰、大連等があるが、何れも陸軍等の飛行場である。たゞ目下設備準備中の東京飛行場は全部政府の施設で、全く理想的な Air Port と云つて良い。東京飛行場は現在は立川陸軍飛行場の一角にあるが、京濱沿線の羽田町鈴木新田即ち穴守稻荷裏海岸に新に十六萬坪の土地を買収して、之に上置土工事及び芝張を爲すものである。其表面鋪裝工事の第一期として六萬坪の面積に芝張を爲し速かに使用に供せんとしてゐる。

位置は圖の如く、年中最多風位を經緯とする陸上設備にして、他日水上飛行設備にも此地點が利用される事になつてゐる。此飛行場は前述の如き目的を有するものだから、交通上、専用道路として稻荷橋より海老取川に沿ひ四間道路を、それより六間道路を設け(此工事は本年十月竣工の筈)場内には東京日々新聞格納庫(イ) 東京朝日新聞格納庫(ロ) 氣象觀測所(ハニ) 逓信省出張所(ヘ) 日本空輸會社事務所(ト) 同格納庫(チリ)等や標識塔税關出張所、檢疫その他各種の建物が建つことになつてゐる。これ等の工事は一切逓信省管理の下に施工せられ、來る期かな春光に至り、青空には飛雀の如く穴守稻荷を驚かす飛行機の實現を見る筈である。

飛行場の設備は全く土木工學の技術範圍の一角に新に領征せられた新規工種である。故

【 35 頁へつゞく】



(1) 遞信省航空局の羽田國際飛行場計畫平面圖
A、第一期滑走場 B、第二期滑走場 C、京濱電鐵遊園地。



米國に於ける或飛行場の平面设计圖案